

⑥刊行物に関する事業一覧

プロジェクト及び刊行物の名称	担当部門	頁
広報企画事業 『東京文化財研究所年報』、『東京文化財研究所概要』、『東文研ニュース』（*企08）	企画情報部	91
平成25年版『日本美術年鑑』 刊行事業・出版事業『美術研究』（調査・研究成果の公開）（企09）	企画情報部	91
無形文化遺産部出版関係事業（無04）	無形文化遺産部	91
『保存科学』54号の出版（保修09）	保存修復科学センター	92
第37回文化財の保存と修復に関する国際研究集会報告書（企11）	企画情報部	92
『大徳寺伝来五百羅漢図』（*企05）	企画情報部	92
『泰西王侯騎馬図屏風 光学調査報告書』（*保修01）	保存修復科学センター	93
『洋人奏楽図屏風 光学調査報告書』（*保修01）	保存修復科学センター	93
『日韓共同研究報告書2014』（*保修04）	保存修復科学センター	93
『文化財における伝統技術及び材料に関する研究報告書2014年度』（*保修06）	保存修復科学センター	93
『文化財建造物における塗装彩色材料の調査・修理・活用』（*保修06）	保存修復科学センター	94
『近代テキスタイルの保存と修復』（*保修07）	保存修復科学センター	94
Conservation, Restoration and Utilization of Goryosha - The Imperial Carriages - (*保修07)	保存修復科学センター	94
『近代文化遺産に関する研究会 鉄道遺産の保存修復の今日と今後』（*保修07)	保存修復科学センター	94
『各国の文化財保護法令シリーズ [19] シリア』（*セ01)	文化遺産国際協力センター	95
『国際資料室蔵書目録』（*セ01)	文化遺産国際協力センター	95
ミャンマーの木造建築文化 Traditional Wooden Buildings in Myanmar	文化遺産国際協力センター	95
東南アジア諸国等文化遺産保存修復協力 平成26年度成果報告書 (*セ02)	文化遺産国際協力センター	95
『シリア復興と文化遺産』（*セ03)	文化遺産国際協力センター	95
Conservation and Scientific Research of the Archaeological Metal Objects at the History Museum of Armenia 2011-2015 Armenia-Japanese Joint Project for the Conservation of Cultural Properties Volume 2 (*セ03)	文化遺産国際協力センター	96
NRICP Final Report of the 2011-2013 UNESCO/Japan Funds-in-Trust Project "Support for Documentation Standards and Procedures of the Silk Roads World Heritage Serial and Transnational Nomination" The conservation of cultural heritage in Central Asia Volume 11 (*セ03)	文化遺産国際協力センター	96
アフガニスタン文化遺産調査資料集 概報第7巻『バーミヤーン遺跡保存事業概報-2013年度（第11次ミッション）-』（*セ03)	文化遺産国際協力センター	96

Conservation and Scientific Investigation of the Paintings of Ajanta Caves 2 and 9 (2009~2011) (*セ03)	文化遺産国際協力センター	96
在外日本古美術品保存修復協力事業報告書 (*セ04)	文化遺産国際協力センター	97

- *注
- ・『東京文化財研究所年報』『東京文化財研究所概要』『東文研ニュース』は、広報企画事業（ニュースレター・概要・年報）（③企08）の一環として実施した。
 - ・『大徳寺伝来五百羅漢図』は、文化財デジタル画像形成に関する調査研究（①企05）の一環として実施した。
 - ・『泰西王侯騎馬図屏風 光学調査報告書』は、文化財の材質及び劣化調査法に関する研究（①保修01）の一環として実施した。
 - ・『洋人奏楽図屏風 光学調査報告書』は、文化財の材質及び劣化調査法に関する研究（①保修01）の一環として実施した。
 - ・『文化財における伝統技術及び材料に関する研究報告書 2014年度』は、文化財における伝統技術及び材料に関する調査研究（①保修06）の一環として実施した。
 - ・『文化財建造物における塗装彩色材料の調査・修理・活用』は、文化財における伝統技術及び材料に関する調査研究（①保修06）の一環として実施した。
 - ・『近代テキスタイルの保存と修復』は、近代の文化遺産の保存修復に関する調査研究（①保修07）の一環として実施した。
 - ・Conservation, Restoration and Utilization of Goryosha—The Imperial Carriages—は、近代の文化遺産の保存修復に関する調査研究（①保修07）の一環として実施した。
 - ・『近代文化遺産に関する研究会 鉄道遺産の保存修復の今日と今後』は、近代の文化遺産の保存修復に関する調査研究（①保修07）の一環として実施した。
 - ・『各国の文化財保護法令シリーズ [19] シリア』は、文化財保護に関する国際情報の収集・研究・発信（②セ01）の一環として実施した。
 - ・『国際資料室蔵書目録』は、文化財保護に関する国際情報の収集・研究・発信（②セ01）の一環として実施した。
 - ・『ミャンマーの木造建築文化 Traditional Wooden Buildings in Myanmar』は、東南アジア諸国等部会さん保存修復協力（②セ02）の一環として実施した。
 - ・『東南アジア諸国等文化遺産保存修復協力 平成26年度成果報告書』は、東南アジア諸国等文化遺産保存修復協力（②セ02）の一環として実施した。
 - ・Conservation and Scientific Research of the Archaeological Metal Objects at the History Museum of Armenia 2011-2015 Armenia-Japanese Joint Project for the Conservation of Cultural Properties Volume 2 は、西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業（②セ03）の一環として実施した。
 - ・NRICP Final Report of the 2011-2013 UNESCO/Japan Funds-in-Trust Project “Support for Documentation Standards and Procedures of the Silk Roads World Heritage Serial and Transnational Nomination” The conservation of cultural heritage in Central Asia Volume 11は、西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業（②セ03）の一環として実施した。
 - ・アフガニスタン文化遺産調査資料集 概報第7巻『バーミヤーン遺跡保存事業概報—2013年度（第11次ミッション）—』は、西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業（②セ03）の一環として実施した。
 - ・Conservation and Scientific Investigation of the Paintings of Ajanta Caves 2 and 9 (2009~2011) は、西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業（②セ03）の一環として実施した。
 - ・在外日本古美術品保存修復協力事業 The Cooperative Program for the Conservation of Japanese Art Objects Overseasは、在外日本古美術品保存修復協力事業（②セ04）の一環として実施した。

広報企画事業（ニュースレター・概要・年報）（*③企08）

『東京文化財研究所年報』『東京文化財研究所概要』『東文研ニュース』の刊行は、広報企画事業（ニュースレター・概要・年報）（③企08）の一環として実施した。詳細は、67頁を参照。

平成25年版『日本美術年鑑』 刊行事業・出版事業『美術研究』（調査・研究成果の公開）（⑥企09-14-4/5）

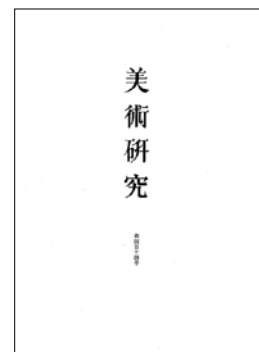
『日本美術年鑑』

日本美術年鑑は、我が国の各年の美術活動と美術研究・批評の状況を記録した刊行物である。企画情報部では当研究所の前身である帝国美術院附属美術研究所が1936（昭和11）年から始めた『日本美術年鑑』の編集を引き継ぎ、刊行を継続してきた。平成25年版は、B5 426ページとなった。出版に際し、東京美術商協同組合、株式会社東京美術倶楽部より助成を受けた。



『美術研究』

1932（昭和7）年1月、当研究所の前身である帝国美術院附属美術研究所の初代所長・矢代幸雄の提唱により第1号を刊行。以来、80年以上にわたり、日本・東アジアの古美術ならびに日本の近代・現代美術とこれらに関する西洋美術についての論文、図版解説、研究ノート、書評、展覧会評、図版解説、研究資料を掲載している。本年度は413号、414号、415号を刊行した。出版に際して、東京美術商協同組合、株式会社東京美術倶楽部より助成を受けた。



無形文化遺産部出版関係事業（⑥無04-14-4/5）

『無形文化遺産研究報告』

無形文化財や無形民俗文化財に関する研究論文、調査報告、資料などを掲載している。



『無形民俗文化財研究協議会報告書』

無形文化遺産部では毎年テーマを定め、保存会関係者・行政担当者・研究者などが一堂に会して無形の民俗文化財の保護と継承について研究協議する会を開催している。第9回にあたる本年度は「地域アイデンティティと民俗芸能」をテーマとして開催し、その報告・総合討議の内容などをまとめて報告書として刊行した。



『保存科学』54号の出版 (⑥保修09-14-4/5)

国立文化財機構所属研究員等による文化財の保存と修復に関する科学的論文や報告を掲載している。54号には報文4本、報告14本を掲載した。



第37回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会報告書 (⑥企11-14-1/1)

本書は、平成26年1月10日から12日までの3日間にわたり開催された第37回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会「「かたち」再考―開かれた語りのため―」の報告書である。本書には、美術史研究者だけでなく考古学や建築学、国文学など「かたち」に関係する様々な分野の研究者を集めて行われた開催プログラムに従い、趣旨説明・基調講演から、3つのセッション、そして最終日に開催されたラウンドテーブルまでの全貌が克明に記録されている。2014年12月刊行。本文376ページ。各セッションの英文概要、外国語発表の原文も収録する。



『大徳寺伝来五百羅漢図』 (①企05の一環として実施)

本書は、中国・南宋時代に寧波近辺で全100幅が制作され、京都・大徳寺に伝来する「五百羅漢図」に対する奈良国立博物館との共同調査報告書である。本調査については2011年に『大徳寺伝来五百羅漢図銘文調査報告書』として一部を報告したが、本書ではこれをさらに大幅に増補改訂し、論文・参考資料を追加・加筆のうえ、高精細カラーの大型図版で収載した。2014年6月刊行。思文閣出版 (〒605-0089 京都市東山区元町355、電話075-751-1781)、B4判、312ページ、本体価格50,000円(税別)



『泰西王侯騎馬図屏風 光学調査報告書』(①保守01の一環として実施)

サントリー美術館と神戸市立博物館が所蔵する泰西王侯騎馬図屏風(ともに重要文化財)に関する光学調査報告書である。泰西王侯騎馬図屏風は桃山時代から江戸時代初めに描かれた初期洋風画の傑作として知られ、東京文化財研究所では平成22～23年度にかけて非破壊・非接触の光学調査を実施した。本書では、高精細カラー・近赤外・蛍光画像を掲載するとともに、蛍光X線分析によって行われた彩色材料調査の結果を収録した。2015年3月刊行。168ページ。



『洋人奏楽図屏風 光学調査報告書』(①保守01の一環として実施)

本書は、永青文庫所蔵の洋人奏楽図屏風(桃山時代、重要文化財)に関する光学調査報告書である。洋人奏楽図屏風は平成22～24年度にかけて解体修理が行われ、東京文化財研究所ではその修理前後に光学調査を実施した。本書では、高精細画像とともに、蛍光X線分析による調査結果を収録した。2015年3月刊行。168ページ。



『日韓共同研究報告書2014』(①保守04の一環として実施)

本国際共同研究「文化財における環境汚染の影響と修復技術の開発研究」に関する日韓共同研究報告書である。今年度は石造文化財の保存環境をテーマに研究会を行い、その報告書を出版した。報告書は韓国国立文化財研究所と共同で刊行した。2014年5月刊行。64ページ。



『文化財における伝統技術及び材料に関する研究報告書 2014年度』(①保守06の一環として実施)

本書は、劣化が著しい文化財建造物の塗装彩色材料や漆塗装を有する考古資料などの各種文化財における伝統技術及び材料の調査を行い、実際の修理施工に役立てることを目的としたプロジェクト「文化財における伝統技術及び材料に関する調査研究」の本年度の活動報告書である。本年度の報告書では、①表装裂試料データのデジタル化、②鍋島報効会所蔵鍋島勝茂所用具足の上塗り塗装調査③日光山輪王寺(四本竜寺)三重塔の旧塗装や日光東照宮唐門及び透塀の旧塗装彩色などの調査研究報告、さらには本年度開催した研究会の報告として各発表の要旨を掲載した。2015年3月刊行。108ページ。



『文化財建造物における塗装彩色材料の調査・修理・活用』（①必修06の一環として実施）

本書は、「文化財における伝統技術及び材料に関する調査研究」のプロジェクトで取り組んできた劣化が著しい文化財建造物における塗装彩色材料の調査・修理・活用の調査事例の中でも、ここ3カ年の成果を報告した研究会の内容をまとめ直したブックレット形式の刊行物である。具体的に対象となる文化財建造物は、平等院鳳凰堂、石清水八幡宮社殿、巖島神社社殿、日光東照宮陽明門・唐門及び透塀、瑞巖寺本堂（欄間彩色）などである。また、文化庁参事官室建造物担当部門の塗装彩色修理の考え方も掲載した。2015年3月刊行。123ページ。



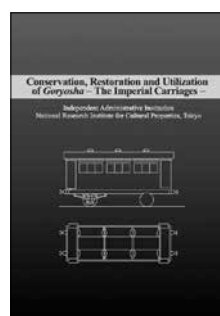
『近代テキスタイルの保存と修復』（①必修07の一環として実施）

本書は、2013（平成25）年11月に東京文化財研究所で開催した、近代テキスタイルの保存と修復についての研究会の内容をまとめたものである。2015年3月刊行。74ページ。



Conservation, Restoration and Utilization of Goryosha – The Imperial Carriages – (①必修07の一環として実施)

本書は、2012（平成24）年11月に東京文化財研究所で開催した、御料車の保存と修復及び活用についての研究会の内容をまとめたもので、平成25年度に発行された日本語版の英語版である。2015年3月刊行。121ページ。



『近代文化遺産に関する研究会 鉄道遺産の保存修復の今日と今後』（①必修07の一環として実施）

本書は、2014（平成26）年11月にドイツ技術博物館（ベルリン）から研究者を招き、東京文化財研究所で開催した、鉄道遺産の保存修復の今日と今後についての講演会の内容をまとめたものである。2015年3月刊行。121ページ。



『各国の文化財保護法令シリーズ [19] シリア』(②セ01の一環として実施)

本冊子はシリアの文化財法を、原文のアラビア語から和訳したものである。巻末には原文も併せて掲載している。2015年3月刊行。59ページ。



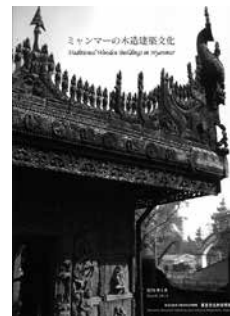
『国際資料室蔵書目録 Library Catalogue of the International Cooperation Center Archives』(②セ01の一環として実施)

本冊子は、平成26年度に国際資料室で受け入れてデータベース化した631点(和漢書213点、洋書418点)の資料及び国際資料室で所蔵する雑誌302種類を掲載した目録である。2015年3月刊行。136ページ。



『ミャンマーの木造建築文化 Traditional Wooden Buildings in Myanmar』(②セ02の一環として実施)

2015(平成27)年2月13日に東京文化財研究所が開催した同題の研究会の内容を収録した報告書。ミャンマーの木造僧院や伝統住居をめぐる4本の書き下ろし論考と、質疑応答を含むパネル・ディスカッションを採録している。日英併記。2015年3月刊行。171ページ。



『東南アジア諸国等文化遺産保存修復協力 平成26年度成果報告書』(②セ02の一環として実施)

平成26年度に東南アジア諸国等文化遺産保存修復協力として実施した、カンボジア、タイ、ミャンマー他における諸事業の内容と事業成果、各カウンターパートとの覚書、発表論文・資料等を収録。日本語。2015年3月刊行。115ページ。



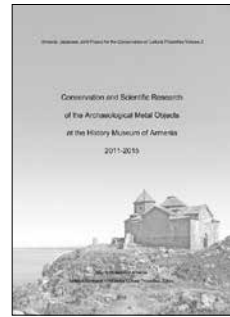
『シリア復興と文化遺産』(②セ03の一環として実施)

本書は、2013(平成25)年10月31日に東京文化財研究所において開催されたシンポジウム「シリア復興と文化遺産」に関する報告書である。当日の講演者らによって執筆された原稿のほか、シリア国内の世界遺産に対するユネスコの「危機遺産」登録決議文など、関連資料を収録している。2014年4月刊行。



Conservation and Scientific Research of the Archaeological Metal Objects at the History Museum of Armenia 2011-2015 Armenia-Japanese Joint Project for the Conservation of Cultural Properties Volume 2 (②セ03の一環として実施)

2011年から2015年にかけてアルメニア歴史博物館所蔵の考古金属資料を対象に行った保存修復事業の英文報告書である。本書は、実施した保存修復から展示に至るまでの作業内容、およびそれにともなう自然科学的調査の成果を収めている。なお、日本語版は2013年5月に出版している。2015年3月刊行。



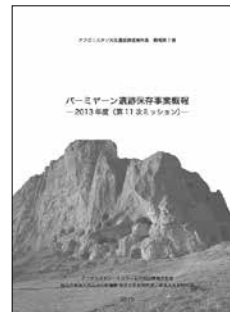
NRICP Final Report of the 2011-2013 UNESCO/Japan Funds-in-Trust Project "Support for Documentation Standards and Procedures of the Silk Roads World Heritage Serial and Transnational Nomination" The conservation of cultural heritage in Central Asia Volume 11 (②セ03の一環として実施)

本書は、2011年から2013年にかけてカザフスタン、キルギス、タジキスタン、ウズベキスタンで実施したユネスコ/日本信託基金によるシルクロード関連遺跡の世界遺産登録支援事業の英文報告書である。同事業では、考古遺跡の地下探査や測量に関するワークショップを現地にて開催したが、そのワークショップの概要・評価や探査・測量結果について収録した。2015年3月刊行。



アフガニスタン文化遺産調査資料集 概報第7巻『バーミヤーン遺跡保存事業概報—2013年度(第11次ミッション)—』(②セ03の一環として実施)

本書は2013年9月から10月にかけて派遣したバーミヤーン遺跡保存事業第11次ミッションの概報である。同ミッションで実施した壁画の状態調査、環境計測データの回収、考古遺跡の現状調査等について報告した。また、武庫川女子大学が作成したバーミヤーン新博物館の基本設計案も補遺として収録した。2015年2月刊行。



Conservation and Scientific Investigation of the Paintings of Ajanta Caves 2 and 9 (2009~2011) (②セ03の一環として実施)

アジャンター遺跡にてインド考古局と共同で実施した事業の成果を公開する『インド-日本文化遺産保護共同事業報告』の第4巻の英文報告書。本書はアジャンター遺跡で実施した試験的なクリーニングの成果、壁画の技法材料および劣化に関する詳細な化学分析の成果を収めている。2015年3月刊行。



在外日本古美術品保存修復協力事業 The Cooperative Program for the Conservation of Japanese Art Objects Overseas (②セ04の一環として実施)

在外日本古美術品保存修復協力事業では海外で所蔵されている紙本絹本文化財および漆工芸品のうち、修復が必要な作品の修復協力を行っている。また、日本の文化財に対する理解の深化、修復技術の移転の目的でワークショップを開催している。本事業の報告として、以下の報告書を刊行した。2015年3月刊行。

- 『在外日本古美術品保存修復協力事業』
- 『在外日本古美術品保存修復協力事業 出山釈迦図』
- 『在外日本古美術品保存修復協力事業 山水図』
- 『在外日本古美術品保存修復協力事業 寒山拾得図』
- 『在外日本古美術品保存修復協力事業 靈照女図』
- 『在外日本古美術品保存修復協力事業 ワークショップ2011』
- 『在外日本古美術品保存修復協力事業 ワークショップ2012』
- 『在外日本古美術品保存修復協力事業 ワークショップ2013』

